

微生物ワーキンググループの思い出

山岸 弘

ライオン株式会社 リビングケア研究所

〒132-0035 東京都江戸川区平井7-13-12

本号は微生物特集号とのことです。本学会の微生物ワーキンググループの思い出について述べて戴きます。

そもそも私と室内環境学会との接点はこのワーキンググループ(以下WGと記します)から始まりました(それまでは学会員でさえなかったのです!)。「空中浮遊微生物除去および防止性能評価法プロジェクト」なる名称を初めて耳にしたのは2004年秋のことでした。折も折、業務では従来の商品開発の分野を拓げるべく、「空間」に目を向けていたところでした。人々が住宅空間の微生物やアレルゲンを気にし出し、巷では「微生物を減らす」と高々に謳った高性能の空気清浄機が出回り始めており、まさにタイムリーなお話でした。このWGに参加して未知なる「空中浮遊微生物の世界」に入ってみようと思ったわけです。

さて、空中浮遊微生物に関する市場や学会の動向を探り、ある程度情報を得られた2005年春、5月13日の定例会からWGに参加させて戴きました。学会の先生方のご意見や方向性をきちんと先取りしよう!との使命を胸に抱きつつ入り込んだ世界は…。

参加する前は、色々と情報を集めて話し合う場と思っていたのですが、予想に反して豊富なデータを元に議論する世界でした。初日の議題は空中に浮遊させる菌株の選定で、WGの代表でもあられるA先生から、およそ50菌種の中から*Wallemia sebi*を選んだ過程を説明して戴きました。実を言いますと、*Wallemia sebi*なる名称はこの時初めて聞いたのです。

年が明けて2006年度になりますと、いよいよクリーンブースを組み立てて、実際にカビを飛ばす実験を開始しました。先生方や参加メンバーの「なんとかしよう!」との思いが休日を厭わない実験となり、議論を重ねた結果が、WGが推奨する試験法の基本条件の確立に結び付いたのだと思います。

参加された先生方は理論と実践を兼ね備えておられ、ご自分でどんどんデータを採っていかれる姿勢には毎回頭が下がりました。でもメンバーが凄いの

はそれだけではありませんでした。定例会の後の二次打合せ(懇親会?反省会?)はいつしか毎回のこととなり、実験で疲れていても、打合せで意見がぶつかっていても、たとえ翌朝早出でも、杯を交わせば元気復活、口調も滑らかにノーサイドとなります。

ここでWGの参加メンバーをご紹介したいと思います。毎回こんな真夜中に!と思わず呻ってしまう時間まで資料を作って送って下さったA先生。データのためには危険を顧みず…完全防護の下、敢然とカビが舞うブースに入っていかれたO先生。

豊富な経験をお持ちのS先生は困った時に幾度となくアイデアを出して救って下さり、K先生は情熱と前向きな姿勢でぐいぐい推進していきました。メンバーがあせっている時、意気消沈している時も大らかな気持ちにさせて下さったY先生。商売の話となると目が輝くU先生。実験で最も大変な指揮者を担って下さったO上さんとY本先生。Nさんはいつも場を和ませ、Y村さんはアフターの幹事をいつも引き受けてくれました。Y口さんはお酒が飲めないのに参加されていました。Y田さんは社歌を歌っていました。遠方からはY下さんとTさんが駆けつけていました。

素晴らしいメンバーに恵まれたことに感謝しています。なんとか頑張って標準化を達成したいですね!